

未来をつくる税金

小樽市立向陽中学校 2年

岩崎 蓮

みなさんは「税金」について考えたことはありますか？

私は、今まで商品を買うときに税金がかかっていることは知っていましたが、なぜ税金が必要なのか、疑問をもつことなく払っていました。

しかし、今回の作文をきっかけに税金について調べ、考えてみました。

税金を納めることは、国民の三大義務のうちの一つとされ、日本国憲法第三十条「国民は、法律の定めるところにより、納税の義務を負ふ。」とあります。

私が一番身近に税金に関わっていると思うのは買い物をしたときに払う消費税です。毎月定期的に購入している雑誌があり、値段は六百円なので、それにかかる税金は六十円です。税金の金額があまり大きくないので支払いの際、特に気になりませんが、金額の大きい買い物したら税金の負担も大きくなるので、そういう場合は大変だなと思います。

税金には、国に納める「国税」と、地方公共団体（都道府県及び市町村）に納める「地方税」があります。国税には、消費税・所得税・法人税、地方税には、住民税・地方消費税など、さまざまな種類の税金があり、私たちは生活のあらゆるところでいろいろな税金を払っているのだと知りました。

そしてその税金は、私たちの身の周りのものごと、に使われていることも、調べてみて改めて学ぶことができました。

例えば、学校の机や椅子、教科書なども税金でまかなわれています。道路も舗装されていて歩きやすいです。もし、税金がなかったら、道路がガタガタのままで歩にくかったり、消防車や救急車を購入することもできず火事が起きたり、救急のときに困ってしまいます。警察官がいなければ治安が悪くなります。義務教育である小中学校がなければ、みんなが平等に教育を受けられず、基本的な知識を学ぶことが難しくなります。これらのことから、国全体が衰え、発展しづらくなっていくと思います。

国民一人一人が税金を負担することは大変なことですが、そのおかげで今の社会があるのだと思います。生活しやすく、安心して暮らせる社会を継続するために「税金」はかせないものだと私は思います。

税金を納めてくれている人々に感謝し、私も大人になるにつれ、いろいろな種類の税金を納める機会が増えてくると思いますが、自分のためにも、周りの人のためにも、気持ちよく税金を納め、さらに日本をよくするため、未来へ貢献したいと思います。